

阿蘇には草原特有の多様な動植物が生育・生息しています。  
そのうち植物は約1,600種が分布するといわれ、  
これは熊本県内に分布する種数の約70%にあたります。

# 阿蘇の草原

## LESSON

# 01

## 草原には4つのタイプがあります

ひとくちに阿蘇の草原といっても、実際は農業・畜産業による利用と管理や地形などの違いから、大きく分けて4つの質の異なる二次的草原があり、ほかに改良草地

もあります。草原のタイプによって景観や生息・生育する動植物も異なります。

※原野を造成して栄養価の高い西洋牧草を栽培する改良草地には、本来阿蘇に生育する植物は育ちません。

### 採草地

採草地では畜産の飼料やたい肥に利用するため定期的に草を刈り取ります。草は、青いうちに対すると再び成長し地下茎の栄養分を消費します。多年草は翌年の栄養を十分蓄えられないため勢力を拡大できず、多様な植物の生育が可能になります。そこにはハナシノブやヒゴタイをはじめとする阿蘇特有の希少植物が含まれることが多く、生物多様性保全の面から重要な位置を占めています。



ユウスゲ群落

### 放牧地

放牧地では牛馬が草を食べ、踏み固めるため、ネザサやトダシバなど草丈の低い植物が生える「短草型草原」になります。牛はワビやオキナグサ、草原性の蝶の食草となるクララなど雑いな草を食べ残すため、独特の生態系を形成しています。しかし、近年は放牧頭数が減り、放牧地であっても短草型草原にならず、ススキの株が点々と残っている放牧地が増えています。



オキナグサ

### 茅野

茅野では、地下に栄養分を蓄えたススキを冬場に刈り取るため、ススキが密生する比較的単純な草原となります。茅薹が星状がほとんどなくなり、茅野としての草原利用は激減しましたが、放牧や採草に利用せず、草原を維持するために野焼きだけを行っているような場所では、茅野と同じようにススキばかりが生えた草原になります。近年、このような場所が急速に広がっています。



ススキ野原

### 湿地性植物群落

草原の中の窪地にできた小さな湿地にはモウセンゴケ、サギソウ、ツクシフクロなど特有の植物が生育しています。これらの植物には「大陸系遺存植物」が多く含まれており、学術的にも貴重なものとなっています。湿地は周辺の草地とともに野焼きされることで堆積する植物遺体が除去されて維持されてきました。しかし、放牧改良に伴う埋め立てや、管理放棄による遷移の進行などにより、分布域は限られてきています。



サクラソウとリュウキンカ

## インタビュー 草原を守る人々



### 上島敬次氏

阿蘇地区国立公園パークボランティアの会会長 阿蘇郵便局勤務 自宅に隣接して私設図書館「まいぼらりー」開設

パークボランティアの会は平成6年に発足。現在59名の会員が、国立公園内の清掃奉仕や自然観察会開催などの活動を行っています。阿蘇草原再生では草原管理手法の実証試験地における管理活動に参加することになり、新たな活動を展開することに会員は意欲を燃やしています。また、北外輪山壁には牛と人が草原への往来に利用した

坂道が数多く残っていますが、今後はこの「草の道」の復活に向けた取り組みも進めたいと考えています。

こうした会の活動すべてが阿蘇の草原再生に繋がりを、また、より多くの方が草原再生に向けた取り組みに参加して、美しい阿蘇の草原が守られていくことを期待しています。